

小松市名誉市民

中田 一 於 さん

〔高堂町〕

小松市名誉市民は、広く社会の進展・文化の発展に貢献し、卓越した功績で郷土の誇りとして市民から尊敬されている人に贈られます。

問い合わせ

広報秘書課

☎ 24・8000

経歴

- ・国指定重要無形文化財釉下彩保持者
- ・石川県指定無形文化財九谷焼技術保存会会員
- ・(公社) 日本工芸会監事
- ・(一財) 石川県美術文化協会理事
- ・石川県陶芸協会相談役
- ・小松美術作家協会会長

主な受賞歴

- 平成2年 日本伝統工芸展文部大臣賞
- 平成22年 日本工芸会保持者賞、北國文化賞
- 平成23年 紫綬褒章、石川テレビ賞
- 平成24年 小松市文化賞
- 平成27年 伝統文化ボーラ賞優秀賞
- 平成31年 旭日小綬章



▲墨地紫苑釉裏銀彩 面取壺 2023年制作



「続く挑戦」表現に新たな可能性を

若い頃から家業に携わり陶芸の道を歩んできた中田さん。三代徳田八十吉さんに師事し、九谷焼の新たな可能性を求めて研究と挑戦を重ね、昭和55年頃からは高度な技法「釉裏銀彩」に本格的に取り組みました。透過性の高い釉薬の下に銀箔を挟んで焼成するこの技法は、繊細な調整が求められる難しい表現ですが、試行錯誤を重ねる中で独自の世界を切り開きました。

中田さんの作品は、九谷焼の五彩に着想を得て自身で調合した「淡青釉」や「淡桜釉」など多彩な色釉を用い、その下に銀彩や金彩を丁寧配すること、柔らかな光と奥行きを生み出しているのが特徴です。淡青釉と銀彩の調和が美しい釉裏銀彩の作品群は高く評価され、九谷焼に新しい表現をもたらしました。

その実績は広く認められ、平成22年には日本工芸会保持者賞を受賞。その後も紫綬褒章、旭日小綬章など多くの荣誉に輝きました。さらに、日本工芸会理事・常任理事や石川県美術文化協会理事、小松美術作家協会会長などの要職を務め、地域文化の発展や後継者育成にも貢献してきました。

令和7年10月10日には「釉下彩」の技法により、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。九谷焼の伝統を継承しながら独自の美を切り開いたその取り組みは、全国的にも高く評価されています。現在も細やかな表現への挑戦を続ける中田さん。長年の創作と探究により九谷焼の魅力を大きく広げてこられた歩みは、本市の文化を語る上でも欠かせないものです。